

経済・金融 フラッシュ

12月マネー統計 ～ついに都銀の貸出残高が底入れ

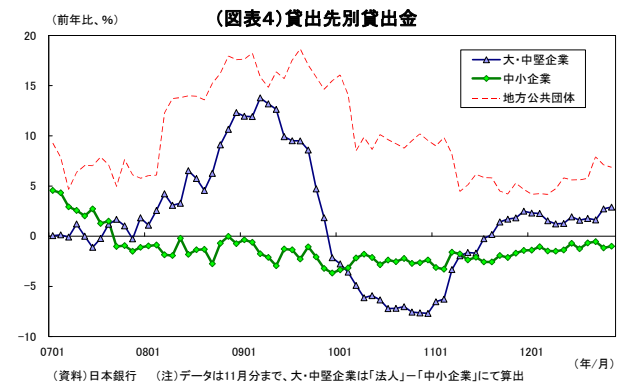
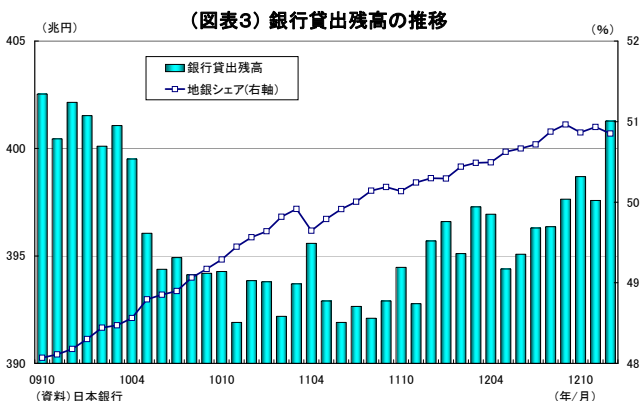
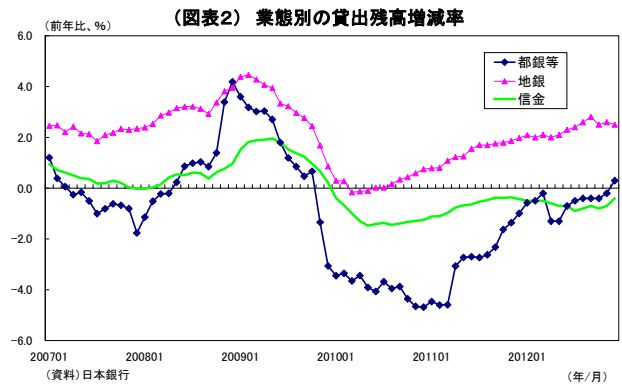
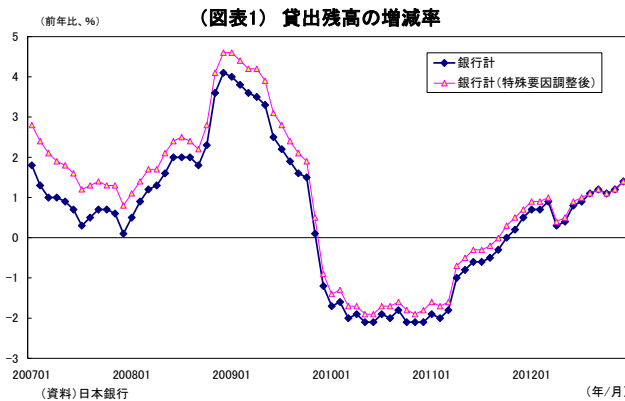
経済調査部門 シニアエコノミスト 上野 剛志
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

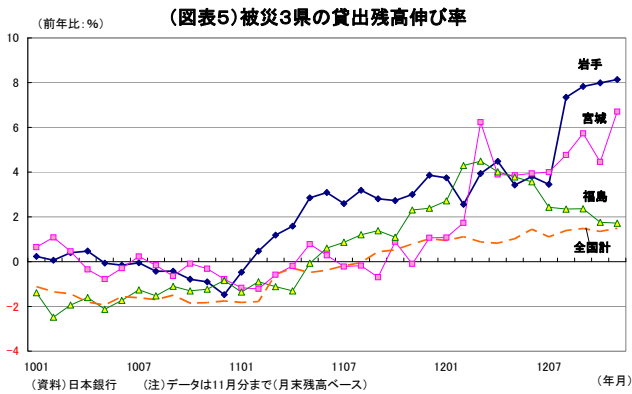
1. 貸出動向：都銀の前年比プラスは3年2ヵ月ぶり

日銀が1月11日に発表した昨年12月の貸出・資金吸収動向等によると、銀行貸出(平残)の伸び率は前年比1.4%となった。1%超えは5ヵ月連続で、伸び率は09年10月以来の高水準となる。引き続き電力会社やM&A向けが牽引した模様。

業態別の内訳は、地銀(第2地銀を含む)が前年比2.5%、都銀等が同0.3%となった。地銀に遅れること1年半で、都銀等もようやくプラス化した。リーマン・ショック後の資金需要急増が一段落した後、長らくマイナスに陥ってきた都銀等の貸出残高であるが、3年2ヵ月ぶりにプラス化を果たしたことは明るい材料である(図表1～4)。

なお、東日本大震災の被災地での貸出も増勢が強まっている。福島県はまだ弱含んでいるものの、岩手県(前年比8.1%増)、宮城県(同6.7%増)はともに全国平均の伸びを大きく上回っている。復興に伴う資金需要が伸びている可能性があり、動向が注目される(図表5)。



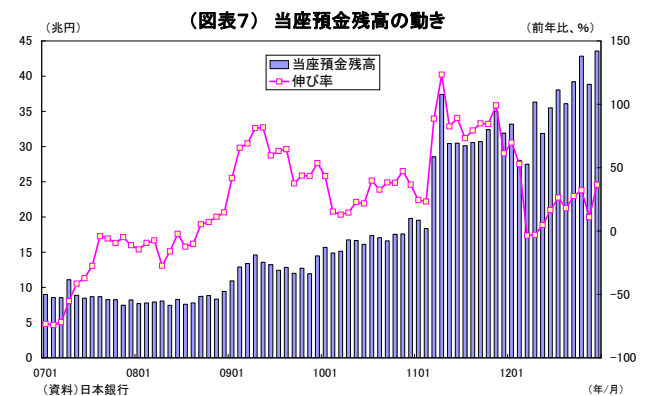
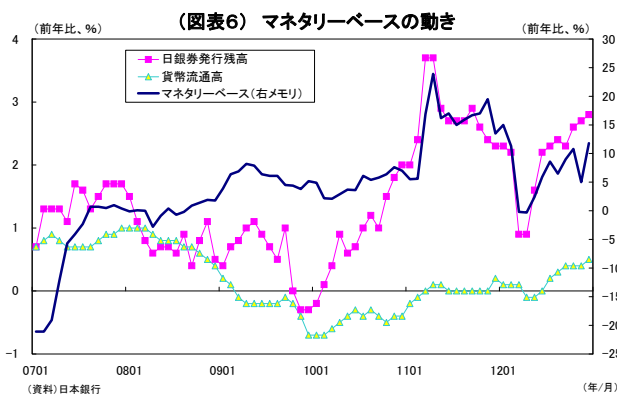


2. マネタリーベース：過去最高を更新

1月7日に発表された12月のマネタリーベースによると、日銀による資金供給量(日銀当座預金+市中のお金)を示すマネタリーベース(平残)の伸び率は前年比11.8%と前月の同5.0%から拡大した。日銀当座預金の伸び率が前年比36.5%(前月は同10.9%)と大きく拡大し、全体の伸び率を引き上げた。季節調整済み前月比年率の伸び率で見ても39.0%と大幅なプラスになっている(図表6,7)。

水準のみでも、マネタリーベース残高(平残)132.0兆円、日銀当座預金残高(同)43.6兆円はそれぞれ過去最高を2ヵ月ぶりに更新。

マネタリーベースは日銀の度重なる資産買入れ等基金増額によって増加を続けている。今後も前年比プラスでの推移が予想されるが、安倍政権が強力な金融緩和を求めている中で、日銀が今後どの位のスピード感でどのような具体策を採るのかが、伸び率のトレンドに大きな影響を与えるだろう。

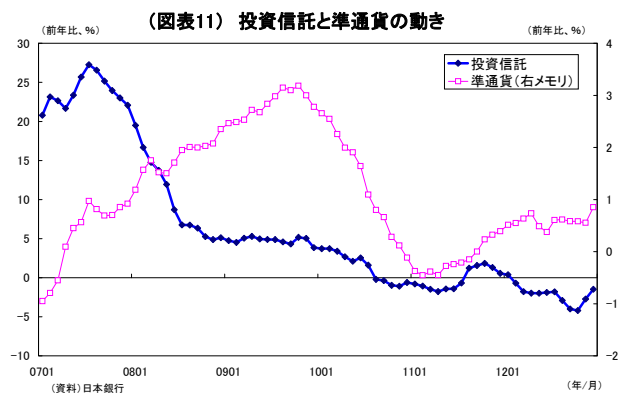
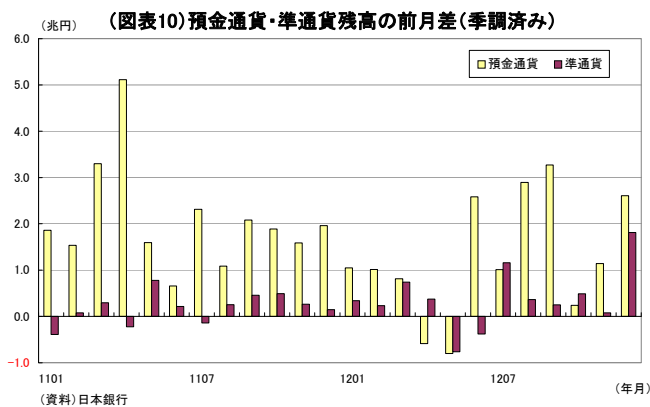
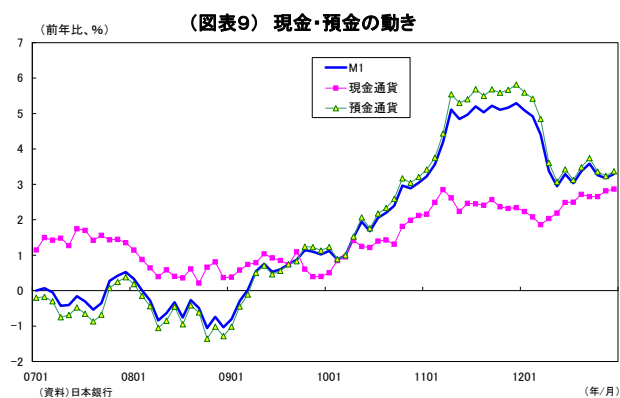
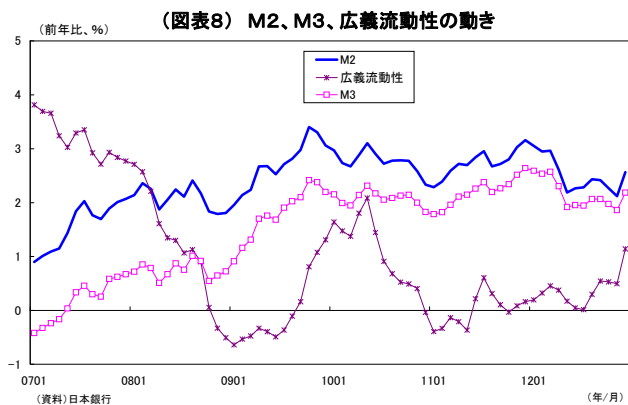


3. マネーストック：広義流動性の伸び率が高まる

通貨供給量の代表的指標である12月のM2(現金、国内銀行などの預金)平均残高の伸び率は前年比2.6%(前月は2.1%)、M3(M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む)は同2.2%(前月は1.9%)とともに前月から伸び率が拡大した。また、M3に投信や外債などを含めた広義流動性の伸び率は前年比1.1%(前月改定値は0.5%)と大きく拡大した(図表8)。

季節調整済み前月差で見ると、普通預金などの預金通貨への流入が引き続き多い一方、定期預金などの準通貨もプラス幅を大きく拡大している。また、外債の伸び率は前年比12.6%（前月は7.6%）に達しており、投資信託（元本ベース）も依然前年割れながらマイナス幅を縮小している（図表9～11）。

11月中旬以降、円安・株高がほぼ一本調子に進んだため、リスク許容度の改善を背景にリスク性資産などに資金を戻す動きが一定程度出てきたとみられる。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。